

神奈川県考古学会

考古かながわ 第52号

上田薫さんの逝去を惜しむ

神奈川県考古学会顧問 寺田 兼方

公益財団法人かながわ考古学財団の中田英氏から、上田薫さんが亡くなられたと言う連絡を受け取ったのは、平成26年4月9日(水)の午前9時であった。思いがけない訃報に、一瞬言葉を失った。きっと、病状は思いの外、進行していたのかもしれない、という思いが脳裏を掠めた。いずれは、湘南考古学同好会の後継者と目されていた上田薫さんが、余りにも早く64歳で夭折されてしまい、残された者は戸惑いを隠せない。

國學院大学で考古学を専攻した藤沢出身の後輩として、山田正紘氏(昭和39[1964]年卒)、染谷(旧姓加藤)七重氏(昭和48[1969]年卒)に次いで上田薫氏(昭和48[1973]年卒)が登場する。

学生時代には、昭和46[1971]年2月の遠藤矢向(西部221地点)遺跡、昭和47[1972]年8～9月の遠藤南大平(西部216地点)遺跡、昭和48[1973]年の大鋸狐塚古墳等の地元の発掘調査にも参加されている。神奈川県教育委員会に奉職されてからは、埋蔵文化財センターのメンバーとして活躍されており、昭和56[1981]年7～9月の県立長後高校建設に伴う代官山遺跡の予備調査を寺田が引き受けて、上田氏が調査期間中ずっと現地に出向されて、一緒に調査をした懐かしい記憶がある。

その間の昭和54[1979]年8月24日に、親しい仲間出版記念会をが藤沢市の市民会館和室に集まって、拙著「古代の藤沢」の出版記念会を開いて下さったが、その席上で上田薫氏から「『湘南考古学同好会』を是非再建してほしい。」と強い提言があった。かつて、稲荷台地遺跡群の調査を契機に、昭和38[1963]年9月15日に結成され、5年後に消滅

していた『湘南考古学同好会』を再建する諸準備が進められ、昭和54[1979]年10月21日の設立総会で再出発が承認された。前回と同様に会長は服部清道先生、副会長は寺田が引き受けた。上田氏は、定年までは要職は引き受けないと固辞され、ずっと会報の編集を担当していた。その後も、会報は原則年4回の既刊で着実に継続しており、平成25年度末には実に134号(通算3326ページ)を数える。

一方、会長の服部清道先生は、平成9[1997]年7月19日に93歳で永眠され、平成10年度から寺田が会長を務めることになったが、後継者として期待する上田薫氏は依然として副会長を固辞され続けた。そして、上田氏は一身上の都合による理由で、平成23[2011]年3月31日を以て、突然退会届を提出され、30年間編集担当として手塩にかけた『湘南考古学同好会』から一人旅に出発された。「60歳を期して考古学とは距離を置きたい」と言う心情を、少し前に皆に披瀝しており、恐らく上田氏の体調が、かなり思わしくなくて、彼の気持ちを大きく左右していたのではないかと思われる。

薫さんは、いつの日か『湘南考古学同好会』に必ず戻ってくると確信していたし、残された皆も、それまで頑張り続けようと思っていた。

4月11日のお通夜の式場で、合掌しながら、思い出は走馬灯のように駆け巡る。若い頃酒が大好きだった薫さん。燃える闘魂の大ファンだった薫さん。『湘南考古学同好会々報』111号から連載された、とても魅力ある「横穴墓往還」は、八回で途絶えてしまった。今は、薫さんのご冥福を、ひたすらお祈りしながら……。

2014 年度総会報告

2014 年度の神奈川県考古学会総会を 5 月 10 日(土)、神奈川県埋蔵文化財センター 3 階研修室にて開催しました。冒頭で会則に則り岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の議事が総会にかけられました。

議事 1 2012 年度事業報告

議事 2 2012 年度収支決算報告

議事 3 2013 年度事業計画(案)

議事 4 2013 年度収支予算(案)

以下に、内容を報告いたします。

議事 1 2013 年度事業報告

(総務) 2013 年度総会を 2013 年 5 月 11 日に神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。参加者 31 名。同日午後、かながわ考古学トピック 2013 を開催、会誌 20 号に論考を掲載された曾根博明氏と大倉潤氏を招き、2 本の発表が行われた。

年度中に隔月で計 6 回の役員会及び幹事会を開催。(会誌)『考古論叢神奈河』第 21 集は年度内未刊行、第 21 集及び 20 周年記念論集の編集刊行準備作業に従事。

(連絡誌)『考古かながわ』第 50 号を 2013 年 10 月に、第 51 号を 2014 年 2 月に発行。

(講座) 2014 年 3 月 16 日に平成 25 年度神奈川県考古学会講座『時空の交差点―遺跡の保存と活用―』を開催(於:横浜市歴史博物館)。参加 48 名。資料集を作成し当日に有償にて配布。前年度の講座記録集は会誌第 21 集に掲載することとなり、会誌担当と分業にて作業。

(発表会) 2014 年 10 月 12 日に『第 37 回神奈川県遺跡調査・研究発表会』を開催(於:横浜市歴史博物館)。参加 142 名。開催中の『横浜市立大学コレクション 古地図の世界「地球のかたちと万国の大地」』展招待券を参加者に無料配布。

(見学会) 見学会を計 3 回開催。第 1 回は 2013 年 7 月 13 日に『発掘された日本列島 2013 展』(於:東京都江戸東京博物館)を見学、参加 33 名。第 2 回は 2014 年 11 月 23 日に小田原城御用米曲輪の発掘調査説明会参加後、特別展『よみがえる小田原城』(於:小田原城天守閣)を見学、参加 28 名。第 3 回はかながわの遺跡展『地中に埋もれた江戸時代の道具たち』(於:神奈川県立歴史博物館)を見学、参加 25 名。

(ホームページ) 2007 年開設の公式ホームページ「Web 版考古かながわ」の再開設準備。経費削減のため契約サーバーを移行し、これに伴いドメインを変更。(20 周年記念事業) 20 周年記念講演記録集の刊行準備、刊行物デジタル化の第一弾として会誌第 3 号を PDF 化。

議事 2 2013 年度収支決算報告

2013 年度の収支決算についての報告が行われた。同収支決算について、2014 年 4 月 7 日に当会監査大上周三・鈴木次郎の両氏が会計監査を実施、金銭出納簿、証拠書類等を精査し預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されている旨の報告がなされ、拍手を以て承認された。

議事 3 2014 年度事業計画(案)

(総務) 2014 年 5 月 10 日に神奈川県埋蔵文化財センターにて総会を開催。これ以降、年度内に隔月で役員会・幹事会を交互に計 6 回開催予定。

(会誌)「考古論叢神奈河」第 21 集および第 22 集を 2014 年度中に刊行予定。

(連絡誌)『考古かながわ』第 52 号・第 53 号を発行予定。

(講座) 2015 年 1 月～3 月頃に開催予定。

(発表会) 第 38 回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 2014 年 10 月 26 日に開催予定。

(遺跡見学会) 県内の発掘調査現場、企画展等の見学会を年 3 回開催予定。

(ホームページ) Web 版「考古かながわ」の運営を継続。

(20 周年記念事業) 20 周年記念事業記念集の刊行

議事 4 2014 年度収支予算案

前年度の実質出資を元に各部会とも出資額を大幅に抑えた予算額となっている。議事 3 の事業計画案とともに 2014 年度の収支予算案が審議され、拍手により承認された。

その他

総会開催日の午後はかながわ考古学トピック 2014 が開催され、考古論叢 21 号に論考を掲載した中三川昇氏と滝澤亮氏を講師に迎え、2 本の論考について発表が行われた。

議事2 2013年度収支決算報告・会計監査報告

2013年度収支決算書

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,062,000	1,068,000	6,000	本年度会費 3,000 × 293 名 = 879,000 次年度会費 3,000 × 10 名 = 30,000 旧年度会費 3,000 × 53 名 = 159,000
機関誌等売り上げ	300,000	161,040	▲ 138,960	発表会要旨 78,420 32回要旨(一般) 1,300 × 1 部 = 1,300 32回要旨(委託0.8) 1,040 × 1 部 = 1,040 (内訳) 34回要旨(一般) 1,000 × 1 部 = 1,000 34回要旨(委託0.8) 800 × 1 部 = 800 35回要旨(会員) 300 × 2 部 = 600 35回要旨(一般) 700 × 1 部 = 700 35回要旨(委託0.8) 560 × 4 部 = 2,240 36回要旨(会員) 300 × 22 部 = 6,600 36回要旨(一般) 700 × 3 部 = 2,100 36回要旨(委託0.8) 560 × 9 部 = 5,040 37回要旨(会員) 300 × 85 部 = 25,500 37回要旨(一般) 500 × 63 部 = 31,500 考古論叢 35,280 (内訳) 論叢1(委託0.8) 1,840 × 1 部 = 1,840 論叢2(委託0.8) 1,840 × 1 部 = 1,840 論叢4(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢7(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢8(委託0.8) 2,000 × 2 部 = 4,000 論叢9(委託0.8) 2,000 × 1 部 = 2,000 論叢16(委託0.8) 1,200 × 2 部 = 2,400 論叢18(一般) 1,000 × 2 部 = 2,000 論叢18委託0.8) 800 × 1 部 = 800 論叢19(一般) 1,000 × 3 部 = 3,000 論叢19委託0.8) 800 × 1 部 = 800 論叢20(一般) 1,000 × 7 部 = 7,000 論叢20委託0.8) 800 × 7 部 = 5,600 講座要旨 47,340 (内訳) 講座横穴(会員) 400 × 2 部 = 800 講座横穴(一般) 1,200 × 1 部 = 1,200 講座城郭(一般) 1,500 × 1 部 = 1,500 講座古代史(一般) 1,000 × 2 部 = 2,000 講座古代史(委託0.8) 800 × 2 部 = 1,600 講座弥生(会員) 500 × 7 部 = 3,500 講座弥生(一般) 1,500 × 2 部 = 3,000 講座弥生(委託0.8) 1,200 × 1 部 = 1,200 講座動向(一般) 500 × 2 部 = 1,000 講座動向(委託0.8) 400 × 2 部 = 800 講座記録集(一般) 1,000 × 9 部 = 9,000 講座記録集(委託0.8) 800 × 1 部 = 800 講座災害(会員) 300 × 4 部 = 1,200 講座災害(一般) 700 × 9 部 = 6,300 講座災害(委託0.8) 560 × 4 部 = 2,240 講座災害(委託0.7) 560 × 0 部 = 0 講座時空(会員) 200 × 26 部 = 5,200 講座時空(一般) 500 × 12 部 = 6,000
雑収入	5,000	4,760	▲ 240	預金利子 他 4,760
積立金取崩	650,000	650,000	0	全額取崩(ゆうちよ定額預金から普通預金へ預け替え) 650,000
繰越金	977,610	977,610	0	977,610
合計	2,994,610	2,861,410	▲ 133,200	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明	決算額	予算額
事務局費	170,000	158,012	▲ 11,988	①連絡費	50,190	50,000
				②事務費	38,792	40,000
				④行事開催費	210	5,000
				⑥会場借上費	24,250	20,000
				⑦旅費	17,980	30,000
				⑧手数料	26,590	25,000
会誌費	1,070,000	480	▲ 1,069,520	①連絡費	480	5,000
				②事務費	0	5,000
				③印刷費	0	1,060,000
連絡誌費	160,000	136,506	▲ 23,494	①連絡費	1,140	5,000
				②事務費	6,526	5,000
				③印刷費	128,840	150,000
発表会費	410,000	170,715	▲ 239,285	①連絡費	9,550	5,000
				②事務費	8,345	5,000
				③印刷費	148,239	350,000
				④行事開催費	4,581	35,000
				⑤謝礼	0	15,000
講座費	490,000	221,310	▲ 268,690	①連絡費	4,100	5,000
				②事務費	1,015	5,000
				③印刷費	196,800	400,000
				④行事開催費	2,975	35,000
				⑤謝礼	16,420	45,000
見学会費	90,000	61,360	▲ 28,640	①連絡費	53,100	55,000
				②事務費	5,910	5,000
				④行事開催費	1,300	20,000
				⑤謝礼	1,050	10,000
ホームページ 運営費	50,000	17,535	▲ 32,465	②事務費	0	5,000
				⑤謝礼	0	5,000
				⑥借上費	17,535	40,000
記念事業 準備金	450,000	18,480	▲ 431,520	①連絡費	0	5,000
				②事務費	0	5,000
				③印刷費	18,480	440,000
予備費	104,610	0	▲ 104,610		0	104,610
合 計	2,994,610	784,398	▲ 2,210,212			

* 収入(2,861,410 円) - 支出(784,398 円) = 次年度繰越金(2,077,012 円)

会計監査報告

2013年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金・現金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

2014年4月20日

監 事

大 上 周 三

鈴 木 次 郎



2014年度収支予算

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,008,000	1,062,000	▲ 54,000	会費 3,000 × 336 名 = 1,008,000 (会員数346名、内10名は2013年度に納入済み)
機関誌等 売り上げ	200,000	300,000	▲ 100,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売上
雑収入	5,000	5,000	0	預金利子/雑収入等
積立金 取崩	0	650,000	▲ 650,000	20周年記念事業費積立金より取崩し(2013年度に全額取崩し済)
繰越金	2,077,012	1,570,148	506,864	
合計	3,290,012	3,587,148	▲ 297,136	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	200,000	170,000	30,000	①連絡費 50,000 総会案内状、会費納入依頼等発送 ②事務費 40,000 会議資料作成、既刊行物発送、消耗品購入 ④行事開催費 5,000 総会・トピックス会場使用料 ⑥借上費 25,000 役員会等会場使用料 ⑦旅費 50,000 役員会等、会議交通費(2013年度分) ⑧手数料 30,000 会費等振込手数料
会誌費	1,110,000	1,070,000	40,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 1,100,000 考古論叢21・22・23集の発行および発送
連絡誌費	160,000	160,000	0	①連絡費 3,000 事務連絡等の送付 ②事務費 7,000 会議資料作成 ③印刷費 150,000 連絡誌52号・53号の発行および発送
発表会費	269,000	410,000	▲ 141,000	①連絡費 10,000 事務連絡等の送付 ②事務費 9,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 200,000 第38回発表会要旨発行、 チラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 ⑤謝礼 15,000 外部講師依頼 15,000円×1人
講座費	338,000	490,000	▲ 152,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 3,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 250,000 講座要旨および前年度記録集の発行、 チラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場借上、会場博物館の展示入場券購入 ⑤謝礼 45,000 外部講師依頼 15,000円×3人
見学会費	91,000	90,000	1,000	①連絡費 55,000 案内状等送付 ②事務費 6,000 会議資料作成、消耗品購入 ④行事開催費 20,000 博物館入館料等 ⑤謝礼 10,000 協力者謝礼
ホーム ページ運 営費	40,000	50,000	▲ 10,000	②事務費 15,000 会議資料作成、ソフトウェア・消耗品購入 ⑤謝礼 5,000 協力者謝礼 ⑥借上費 20,000 サーバー使用料
記念行事 準備金	335,000	450,000	▲ 115,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成、消耗品購入 ③印刷費 325,000 2010年度発表会・講座記録集の刊行、 既刊行物のデジタル化
予備費	747,012	104,610	642,402	
合計	3,290,012	2,994,610	295,402	

コラム:
お宝再発見！

下馬周辺遺跡出土の鎧について

植山 英史

下馬周辺遺跡(鎌倉警察署地点)は現在の鎌倉駅から南に直線距離で約600m、由比ガ浜の海岸線からは北に約700mに位置します。若宮大路の東側に面し、現在の一の鳥居が南約50mに所在します。遺跡の調査は新しい鎌倉警察署の建設に伴って、2010年6月から2011年6月にかけて(公財)かながわ考古学財団が実施しました。

発掘調査は南北に分割して行い、更に建物の影響が中世面まで及ばないため、近世面までの調査となった範囲が南北に縦断しており、計6分割の調査となりました。中世面では、60棟余りの竪穴建物群や300を超える土坑、大形の井戸などが、17万点を超える大量の遺物とともに発見されました。竪穴建物は1辺が3m程の小形のものから、14m超の大形のもの、方形、長方形のもの、石敷を有するもの、柱穴が並ぶもの、礎石を持つものなど様々な規模、形態、構造のものが存在します。

中でも調査区南西端で発見された28号竪穴建物は、東西辺の長さが約14.5m(最大距離14.7m)と、本遺跡で発見されたものでは最大規模で、鎌倉市内の竪穴建物の中でも最大級の大きさと思われます。南辺の大部分が調査区外にあるため、正確な規

模・構造は不明ですが、南東辺が残存し、その幅は5.3m程です。礎石及び穴が東西の中軸線上に並んでおり、柱(柄)を建てたと推定されます。西側底面の中軸線からやや南の位置で、径約80cmの円形の土坑が検出されました。この土坑を掘り下げていくと中から鎧から鎧が出土しました。鎧は札板の裏側が上面を向いた状態で出土しており、梅檀板、鳩尾板、胸板などの部品も確認されました。

発泡ウレタンで周囲を固めて取上げた後、東京文化財研究所でX線撮影や出土時裏面の仮クリーニングを行ったところ、梅檀板、鳩尾板、胸板、障子板、総角付の鍔座などは2セット分存在することが判明し、梅檀板、鳩尾板、総角付の鍔座、鉾金具には、鳥文と菊文の2種類が確認されました。また、札板は鉄札のみが確認されていましたが、一部に革札に塗った漆が残存していることも判りました。鎧がまとまって出土した例は鎌倉時代では初めてで、平安時代末を含めても京都市法住寺殿例に続いて2例目になります。鎧は元興寺文化財研究所で本格的な保存処理を行い、札板の本来の向き(出土時裏面)を展示する形で、保管しています。この建物からは他にも、西端底面の小穴から銭貨20緡(1,896枚)が出土しています。建物東側の底面付近からは、花瓶、香炉、籠(えびら：弓を入れる道具)の端手の可能性のある鉄弦などが出土しています。これらの遺物の一部は、2014年度の「発掘された日本列島展」の展示遺物に選ばれ、現在、全国を巡回中です。

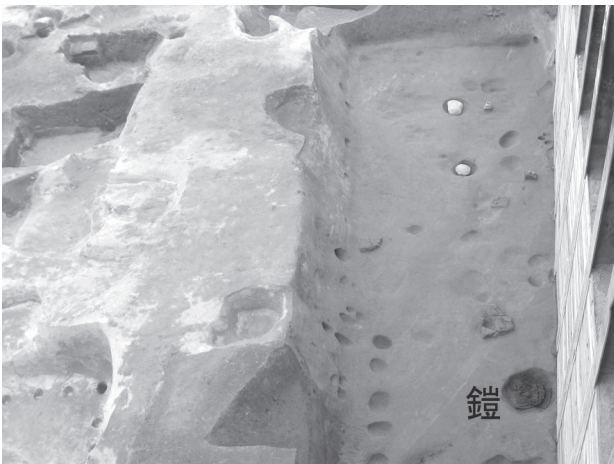


写真1 28号竪穴建物(かながわ考古学財団調査報告301『下馬周辺遺跡』より転載・一部加筆)



写真2 28号竪穴建物出土鎧(同報告書より転載)

平成25年度第3回見学会参加記

「かながわの遺跡展―地中に埋もれた江戸時代の道具たち―」に参加して 千色 出

平成26年2月2日、神奈川県立博物館において開催されている「かながわの遺跡展・地中に埋もれた江戸時代の道具たち―かながわの町と村の暮らしぶり―」の見学会に参加しました。

展示の見学に入る前に、神奈川県教育委員会の富永氏より30分ほど江戸時代の陶磁器についての説明をいただきました。展示の大部分を占める陶器・磁器の違いやその産地について説明いただき、展示を見るに際して理解が進みました。

展示の導入部では行灯が並べられており、当時の灯り照度が再現されていました。現代の明るい夜に慣れてしまった私には予想以上に暗く不安を感じさせる一方、ほの暗い灯りに暖かみも感じました。

展示は大きく二つの主題に分かれており、前半は「食べる」「装う」など用途別に展示されていました。出土品だけでなく、当時の宴会の様子を描いた浮世絵や食事風景を再現したお膳など、当時の使われ方をイメージしやすく展示されていました。道具としては陶磁器など現代でも使われていたり馴染みが深く、今の生活の延長上に江戸時代の暮らしがあったと思いがちでした。しかし、例えば、碗がご飯茶碗として使われていたのか、湯飲みに使われていたのか、使用方法が不明確だとのことで、道具の使われ方ひとつをとっても現代のイメージを持ち込んではいけなと感じました。

後半は、「城内」「農村」などの出土する遺跡の性格別の展示でした。近世の遺跡は城下町や宿場などは注目されていますが、農村など庶民の生活様式はなかなかイメージしにくいと思っていました。焼き接ぎ師の活動範囲など資料をひとつひとつ丹念に見て行くことで浮き上がってくるものもあると気づかされました。



展示品について富永氏の説明を受ける参加者

平成25年度考古学講座参加記

考古学講座「時空の交差点―遺跡の保存と活用―」に参加して 加藤 大二郎

講座のタイトルに見られる通り、遺跡の保存の仕組み、活用の方法についての講座でした。講座としては、田名向原遺跡の保存活用について、三殿台考古館における遺跡の保存活用について、東村山市における遺跡の保存活用について、永福寺跡の整備について、史跡・天然記念物となった旧相模川橋脚についての講演でした。途中には会場に隣接している大塚遺跡公園の史跡整備の現状を橋口会員からご案内いただきました。

全ての講義について共通して認識されていたことは、保存を通じて何を伝えるのか、市民参加の保存・活用はどうあるべきなのか、現状どういった課題と解決策があるのか、というところが中心となっていました。まず保存を通じて知っていただきたいこととしては、まず第一に存在を知ってもらいたい、遺跡について知ってもらいたいというところからでした。そして、ではなぜこれが重要なのか、その価値(重要性)を伝え続けることの大事さをあげていました。さらに、市民に対してはどこにでもあるものではないことをいかにご理解いただけるかが重要として、そのために、行政の課題としては資料を研究していくことが必要と認識されていました。また、市民参加の課題については、いかに興味関心のない人を巻き込むことができるかが最も重要なことと考えられていました。

どの史跡についても課題とされていたもので共通していたのは、立地についてのことで、アクセスの悪さに加え、バス停のネーミングセンス、あるいは施設の老朽化といった問題についてどの史跡も悩みを持っていました。解決策として新発見をする研究を継続していくことが重要と考えられていました。また、仮に利用者が公園(遺跡)として、理解できなくても、ここに来た、ここで遊んだという記憶にうっすらとでも残れば、そこから始めるケースはあるだろうと考えられていました。他には利用者面の課題として、タバコの投げ捨てによるようなボヤ騒ぎ、変質者が出るなどの問題をどのように解決していけるのかというものがありませんでした。そのような活用のための整備のための課題(考え方)として、整備後に数十年たってから「これはいったいなんだったんだ?」とならないように整備をする段階で考えることが重要で、その語り部を引継ぎ、継承していくべきという意見が多くありました。

この場ですぐ答えの出せるものではありませんでしたが、こういった課題であったり、問題点を認識し、共有することができたのは、これからの活用・整備を背負っていく市民にも行政にとっても、大きな一歩になったと思います。

会員のみなさまへ～神奈川県考古学会主催の催し案内と各担当からのお知らせ～

★ 発表会担当―第 38 回遺跡調査・研究発表会を開催します！―

第 38 回神奈川県考古学会遺跡調査・研究発表会を、昨年に引き続き横浜市歴史博物館のご協力を得て開催いたします。今回は、県内で調査された縄文時代から中世までの 10 遺跡を発表します。皆様、ふるってご参加ください。

日 時：平成 26 年 10 月 26 日（日） 10：00～ ※入場無料、発表要旨は実費にて頒布

会 場：横浜市歴史博物館 講堂（横浜市営地下鉄「センター北」駅下車 徒歩約 10 分）

主 催：神奈川県考古学会 共催：横浜市歴史博物館 同時開催： 図書交換会 ※会場は講堂前研修室

後援：神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会・川崎市教育委員会

・相模原市教育委員会・公益財団法人かながわ考古学財団

★ 会誌担当―考古論叢神奈河第 21 集は近日刊行予定です―

大幅に刊行予定が遅れ会員ならびにご執筆いただいたみなさまにはご心配をおかけしております。近日中に発送いたします。



★ 見学会担当―「学会旗」お披露目！―

大変遅ればせながら、2011 年度にデザインされた神奈川県考古学会の旗をご紹介します。年 3 回実施している見学会で、参加されるみなさまの目印として、活躍中です。

★ 講座担当―2014 年度考古学講座のテーマは「古代」です！―

年明けの開催に向けて、鋭意準備中です。数多くの新発見に支えられ、

近年研究の進展著しい神奈川県の古代の様相について、さまざまな角度に焦点をあてていく予定です！

★ 連絡誌担当―リニューアルしたホームページをご利用ください！―

2014 年 5 月に再開設されました！現在も少しずつ改訂中です。

神奈川県考古学会
<http://koukokanagawa.com>

まだまだ閲覧可能な頁が限られるなどご不便をおかけしておりますが、県内の考古学関連行事のお知らせなど、少しずつ情報を増やして行く予定です。Web 上での情報提供の方法など、みなさまからのさまざまなご意見・ご提案をお待ちしております。

★ その他―論叢への論文・研究ノート等の原稿を随時募集しています。

編集後記

下馬周辺遺跡から鎧が出土したのは東日本大震災の直前だったように記憶しています。復興と同じように文化財保存も進捗を認識しづらいものですが、列島展はその成果を実見するよい機会だと思います。現在巡回中の遺物の解説を調査担当者の植山会員にいただきました。また上田薫氏の訃報に際し、寺田兼方顧問より痛惜の念を綴っていただきました。在りし日のお姿を偲びつつ、心より哀悼の意を表します。

考古かながわ 第 52 号

発 行 神奈川県考古学会
発行日 2014 年 9 月 25 日
編 集 連絡誌部会：桑原・高橋・古田土
印 刷 (有) 湘南グッド
発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之
郵便振替 00240-9-71208
E-mail soumu@koukokanagawa.net
U R L <http://www.koukokanagawa.net>